

古河駐屯地 納涼大会



平成二十九年七月十九日、夏真っ盛りの中、地域住民との親睦を深め、駐屯地に対する理解と信頼関係の醸成を図るとともに、隊員・家族との融和と団結の促進を図る目的で「古河駐屯地納涼大会」が実施された。今大会は、古河駐屯地と古河駐屯地後援会の共催、隊友会古河支部・古河自衛隊協会の協賛により行われた。

納涼大会には、部内外からの多数のご来賓及び隊員家族や地域の方々、約一万一千人の来場者とともに盛大に行われた。

イベントでは、子供達を対象としたジャンケン大会を皮切りに、和太鼓演奏、タヒチアンダンス、茨城県地方協力本部広報大使、オニツカサリー氏のライブが行われ、美しい歌声を披露し、サブライズとして子供達とダンスを踊ったりと会場を盛り上げた。

セレモニー後に行われた盆踊りでは、工夫を凝らした仮装をした隊員や地域住民等が輪になって踊り、会場がひとつになった。

また、曹友会が行ったちびっこ広場の射的や輪投げ、公募による売店等は、絶えず来場者で賑わい、長い行列が出来るほど大盛況であった。

夜も更け、盛り上がりも最高潮になった時、今年はバックミュージックと共に打ち上げ花火約二百発と仕掛け花火のナイアガラが駐屯地の夜空を彩ると、来場者から大きな拍手と歓声があがり、今大会も盛会のうちを終了した。



オニツカサリー氏 ライブ



タヒチアンダンス



和太鼓



花火



曹友会 (射的)



盆踊り

職場体験学習



基本教練



救急法

七月二十五日から九月六日までの間、中学校が行う職場体験学習の支援を十四校五十一名に對し行った。

生徒達は、緊張した面持ちであったが、駐屯地施設見学や自衛隊に関する説明等が進み、担当した隊員達と接するうちに、徐々に中学生達の表情も和らいできた。

実技体験は基本教練や救急法を体験し、初めは戸惑っていたが、全員熱心に取り組み、見違えるほど上達した。

参加した生徒からは、「自衛隊に興味をもった。就職してみたい。」等の感想等がよせられた。

綱引き



会場



試合

九月十七日、中央運動公園総合体育館において古河市が主催する「第二回綱引きフェスティバル大会」が行われた。

今大会は、男子の部、女子の部等五つの部門に別れ、リーグ戦方式で行われた。

古河駐屯地からは、隊員達で編成された二チーム二十名が参加し、白熱した試合を繰り広げた。結果は、Aチーム四位、Bチーム六位と健闘した。

古河市は、茨城ゆめ国体二〇一九年（第七十四回国民体育大会）で綱引き会場として選定されている。

転入者の紹介



高射中隊長 片山 1尉



総務部長 高井 1佐



副団長 矢田 1佐



転入者 18名



警務班長 古川 2尉

八月一日付で転入部の隊長等を含め二十二名の隊員が、新戦力として古河駐屯地に転入した。

新隊員後期終了式



隊旗返納



新隊員 57名

九月十八日、平成二十九年新隊員後期教育修了式が行われた。

新隊員五十七名は、約三ヶ月の課程教育を終え、自信に満ちた表情で来賓及び家族の見守る中、式に臨んだ。

執行者の第四施設群長は「今後の諸君らの活躍を期待している。」と式辞を述べた。

その後、駐屯地隊員食堂において祝賀会食が行われ家族・同期・助教達と会食を楽しみ、別れを惜しんでいた。

また、家族からは「凛々しく成長した姿に感動しています。」と久しぶりに再会した我が子の姿を頼もしそうに見つめながら、有意義な時間を過ごしていた。

定年退官者（予定）の紹介



支処 金澤 1尉
12月31日付



器材隊 埴曹長
12月3日付



支処 山中曹長
12月1日付



器材隊 船田曹長
11月16日付



支処 小林曹長
1月20日付



業務隊 一万田 3尉
1月12日付



団付 沼尾准尉
1月9日付

関東補給処古河支処

八月一日付で一等陸佐 高井勝則が北海道防衛局から古河支処総務部長として着任した。
高井一佐は、支処の業務のみならず駐屯地の各種行事にも積極的に取り組んでいく旨、抱負を述べた。



高井 1 佐

九月六日から九日までの間、勝田小演習場において第二回 B A S E 訓練を実施した。今回の訓練では施設補給点開設について、一夜二日の連続状況下において練成し、陸曹の実員指揮能力及び陸士の施設基礎動作の練度を向上できた。



歩哨用掩体構築

八月十三日から二十七日までの間、富士総合火力演習を支援した。

期間中は部隊の要求に対し、事前集積品を活用するとともに、計二回の輸送を含む十一品目百三十六点の部品を迅速に補給し、富士総合火力演習の成功に寄与した。



現地での在庫確認

九月二十五日付で後期教育を終え、会計一名、施設三名（内 W A C 一名）計四名の新配置隊員が着隊し、出迎え行事を行った。
出迎え行事では盛大な歓迎を受け緊張していたが、支処隊員を前に元氣よく今後の意気込みを述べた。



出迎え行事

古河駐屯地業務隊

七月十日から十四日の間、「花壇コンクリル（前段）」を実施した。
今年度の花壇コンクリルは、前後段二回の採点を実施し、総合点で評価する。前段の結果は、富士の裾野での訓練をイメージし作成したダンブ車両中隊が一位であった。
十一月に後段の審査が行われる。



富士山をイメージ

九月十八日、台風十号の強風により弾薬庫の松が倒れ、フェンスが破損した被害の仮復旧工事をバケットを使用して実施した。事後、破損した部材を調達し、元通りに補修する。



復旧工事

総務科からのお知らせ
総務科室内に郵便ボックスがあり、街角の郵便ボックスと同様に投函することが出来る。各部隊は活用されたい。
場所
二号庁舎二階西側
業務隊総務科
右奥ボックス



ポスト位置 左上赤丸

八月二十一日から九月四日までの間、埼玉短期大学の学生二名の栄養士実習を支援した。実習生の識能向上の一助になる事ができ、さらに自衛隊への理解を促進した。



実習の様子

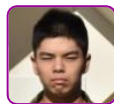


給食業務体験

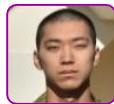
新配置隊員紹介

各部隊等に、新隊員三十七名が配属された。

団付 器材隊 ダンブ



木村 1 士



吉田 1 士



北原 1 士



久我 2 士



平原 1 士



川原 2 2 士



西川 2 士



小林 2 士



寺本 1 士



石川 2 士



酒井 1 士



山口 1 士



栗原 1 士



関口 1 士



辰野 2 士



細谷 2 士



田代 2 士



田村 2 士



三田 2 士



浅野 1 士



角山 1 士



箕輪 1 士



佐藤 1 士



三浦 2 士



幅田 2 士



新井 2 士



安田 2 士



藤岡 2 士



吉田 2 士



武井 2 士



山本 2 士



恩田 2 士



石井 2 士



石原 2 士



平原 2 士



柳橋 2 士



長谷川 2 士

祝！配属



第301ダンプ車両中隊



クロスウェーブ埋設

七月二十五日から八月四日までの間、駐屯地業務隊の支援として、一号営庭の排水設備工事を実施した。第一期は、クロスウェーブ等の埋設をし、排水設備の万全を期した。工事を通じて、施設基礎作業及び施設機械操作等の練度を向上させるとともに、駐屯地の環境整備に寄与した。また、第二期として、側溝整備も実施する。



山頂での集合写真

七月二十六日及び八月二十九日の二回に分け、山地機動訓練として富士登山を実施した。御殿場登山口新五合目より登山を開始し、各組ごと山頂を目指した。入校者等を除く全員が登頂に成功し、各人の達成感の醸成と中隊の団結の強化を図るとともに、富士山噴火対処計画の資とした。

第102施設直接支援大隊



首返し

七月十九日から八月四日までの間、第二・三係主任を担任官として、各中隊の格闘訓練要員に対し、後支隊格闘集合訓練参加のための「基礎体力基準・格闘練度基準」に到達させるべく、練成訓練を実施した。また格闘指導官を各担当教官に指定し、指導能力の向上を図った。



塗装後



塗装中

七月三十一日から八月四日までの間、平成三十年年度観閲式を見据え、九二式浮橋を対象として、塗装の工程の足づけ、マスキング、塗料の作成、一連の流れを実施して、塗装能力の向上を図った。

320基地通信中隊 古河派遣隊



回線構成を行う電話班

八月二十三日から二十八日までの間、第一回群・大隊訓練が行われた。派遣隊長が岸三尉となつてから初めての訓練であったが初めに、とつて実りの多い訓練となった。訓練の後段では回線構成の状況が付与されたが、日頃からの練成の成果もあり、無事に構成を完了させることができた。



会食の様子

九月四日第三二〇基地通信中隊第二十一代中隊長渡邊一尉が来隊され、中隊長初度視察が行われた。中隊長の来隊は八月に行われた群・大隊訓練以来二回目となるが、この日は会食も実施され、隊員から美味しいと評判である古河駐屯地の食事に舌鼓を打った。

第337高射中隊



銃剣道大会

八月三日、中隊は第二高射特科群として、第四十八回全日本青年銃剣道大会に参加した。中隊からは、東谷三曹と、廣瀬士長が出場し、成績は二回戦敗退ではあったものの、今後大会での活躍が期待出来る試合内容であった。最後まで諦めず、闘い続けた選手達に、来年度の更なる飛躍に期待する。



着隊記念写真

九月十三日、中隊に新たな戦力となる新隊員二名が着隊した。出迎え行事では、期待に満ち、緊張した面持ちではあったが、諸先輩の話をよく聞き、決意表明において確固たる意志を感じさせる姿は、今後の成長・活躍が大いに期待される。これからも初心を忘れず、日々邁進していつてもらいたい。

第101施設器材隊



銃剣道



断効走

九月二十九日、平成二十九年年度第二回隊戦技競技会(断効走・銃剣道)を実施した。駐屯地内道路で実施した断効走競技においては、残暑厳しい中、各グループ選手が一丸となつてゴールを目指し、力走した。駐屯地体育館で実施した銃剣道競技会でも、各選手は、中(付)隊の名誉と誇りを賭け、持てる力を最大限発揮した。競技結果は、断効走は優勝、架橋中隊、準優勝、本部付隊、銃剣道は、優勝、特殊器材中隊、準優勝、本部付隊、特に断効走については、架橋中隊が昨年に引き続き、二連覇の成果を取めた。

第341会計隊



訓練の様子

七月二十一日から二十三日の間、相馬原演習場において集中野外行動訓練を実施した。偵察、移動、展開、警戒自衛戦闘等の訓練を実施し、部隊として及び個人の野外行動能力を向上させた。十月の訓練検閲では訓練の成果を十分に発揮できるよう会計隊員一同更なる練成に励んでいく所存である。



自己紹介

九月十日付で新配置隊員二名が着隊した。出迎え行事での自己紹介では、「会計隊員として古河駐屯地に早く慣れ、会計隊の戦力となるよう努力していく。」と述べた。二人の今後の活躍を期待する。